

おしゃべり会に対する みなさんのお声をご紹介します

【肯定的なご意見】

- ✓ 議員と直接話ができて良かった
- ✓ 普段話す機会のない議員と意見交換ができた
- ✓ 少人数・グループ形式で話しやすかった
- ✓ 和やかな雰囲気に参加しやすかった
- ✓ 議員の考えや思いを知ることができた
- ✓ 他の参加者の意見が聞けて参考になった
- ✓ 新たな気づきや学びがあった
- ✓ 市民と議員が話せる場は大切だと思う
- ✓ 継続開催を希望する／また参加したい
- ✓ ファシリテーターや運営が良かった
- ✓ 若い世代の意見が聞けて良かった
- ✓ 市政や議会への関心が高まった
- ✓ 地域課題を共有できた
- ✓ 他地区の参加者や議員と交流できて良かった
- ✓ 議員を身近に感じることができた
- ✓ 自由に意見が出せて良かった
- ✓ 新しい人とのつながりができた
- ✓ 今後のまちづくりに役立つヒントを得られた

【改善のご要望】

- ! 話し合い時間が短い
- ! 質疑応答や意見交換の時間を増やしてほしい
- ! 参加者が少ない／若い世代の参加が少ない
- ! テーマ設定がなく議論が深まらなかった
- ! 資料がほしかった
- ! 「議会の仕組み」の説明より意見交換を重視してほしい
- ! ファシリテーターの進行に改善が必要
- ! 意見に対するその後の対応や回答が見えない
- ! 議会活動の情報発信が不足している
- ! 開催日時の見直しを求める声



詳細はこちらから

全10地区でいただいたご意見やご要望などの全てを鯖江市議会のホームページに掲載させていただきました。左の二次元コードからご確認いただけます。なお、今回いただいた皆様からの声に耳を傾け、必要と判断したものに対して、市の担当課や関係部局に「市民からの声」として伝え、その進捗なども議会として注視をしてまいります。



議会報告会運営委員会 メンバー

今年度開催したおしゃべり会は「ちょっと話を聞くだけでOK」「その場で質問できる」という気軽さを大切にすることで、普段はなかなか議会に足を運ばれない方など、多彩な層の皆様にご参加いただくことができました。各会場では日頃の暮らしに対する率直なご意見や貴重なアイデアをたくさんいただき、対話の重要性を改めて実感いたしました。

皆様の声は、これからの鯖江の未来を創る大切な原動力です。今後も開かれた議会を目指してまいりますので、引き続きお気軽にお声がけください。

編集後記 副委員長 土田 光

7月11日～26日にかけて
市内 全10地区で開催



鯖江市議会
議会報告会運営委員会 発行

「市民と議員のおしゃべり会」開催 報告

限られた時間でしたが、議会活動や市政についてご報告し、皆様から貴重なご意見・ご質問をいただきました。いただいたご意見は今後の議会活動にしっかりと生かしてまいります。

市民の皆様にとって、より身近で開かれた議会となるよう、議員一同これからも努力してまいります。

議長 福原 敏弘

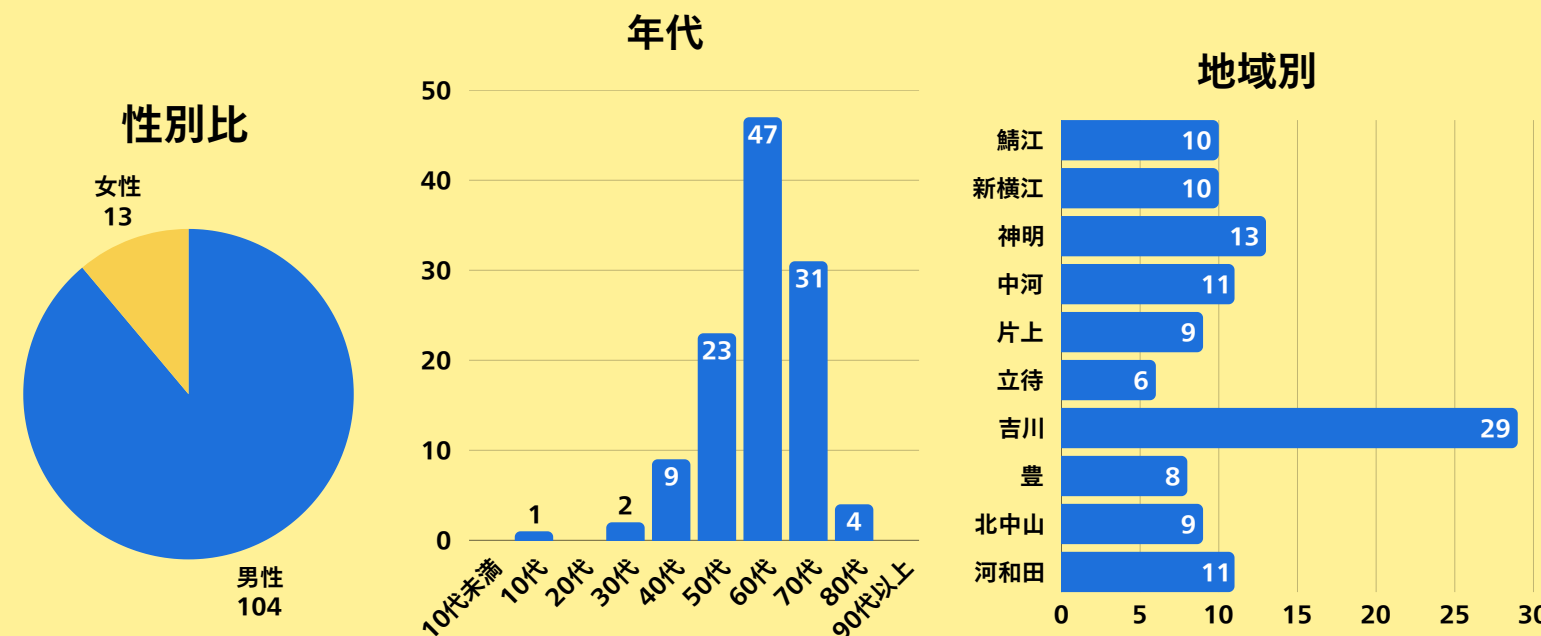


「おしゃべり会」では防災・高齢者福祉・地域活動の担い手不足から、人口減少・若者定住・物価高対策まで、暮らしに直結する課題を数多くお聞かせいただきました。一つひとつの声を、市民と議会との新たな信頼関係を築く出発点として、市政に生かしてまいります。

議会報告会運営委員長 遠藤 隆



ご参加いただいた市民の方の属性（計117人）



今回いただいたご意見などの一部をまとめました

防災・治水・避難体制

在宅避難、個別避難計画、避難行動要支援者対応等における形だけの訓練や災害時の情報伝達に不安があることや、河川の越水・冠水、土砂・草木の撤去、液状化のリスク把握、積雪時の救急対応など、地域ごとの災害リスクに応じた対策が多く求められた。

具体的には

- 実効性のある実践的な防災訓練
- 災害時に音声だけの情報伝達ではなく視覚的情報伝達の拡充
- 豪雪時における山間部への救急体制の確立

障がい者支援・インクルーシブ

公共施設のバリアフリー化の遅れ、施設整備計画への当事者参加、災害時の視覚的な避難情報、議会中継や観光施設での字幕や手話対応、障がい児の入園入学時の相談体制などが求められた。施設や情報を“完成後”ではなく、計画の初期段階から当事者の声を活かす仕組みづくりも求められている。

具体的には

- バリアフリーな参加環境の整備
- 計画段階からの当事者参加
- 災害時・議会・観光等の情報保障

地域運営における担い手不足

地域の担い手不足は深刻な問題だが、一部の人に負担が集中することにより地域を支える人が疲弊し地域活動が続かなくなることも大きな課題である。5年後、10年後も今までと同じやり方を続けていけば、区長や役員を引き受ける人はいなくなるとの意見が出された。

具体的には

- 若い世代が地域活動や議会に関心が薄い
- 地域コミュニティにおける女性活躍・女性の得意分野を活かす地域運営
- 縮小する地域イベント（若者参加、高齢化、企画者の減少）

地域資源・施設活用・まちづくり

三里山や中山公園、歴史・文化資源、駅周辺、空き店舗など、地域資源を活かした活性化を求める声がある。地域行事の担い手不足や若者の参加減少も課題であり、地域に寄り添った行政の伴走支援が求められている。

具体的には

- 既存の地域資源をどう活かすか
- イベント・地域活動の担い手不足
- 地域資源を経済につなげる視点

行政運営・議会との関係・情報発信

議会や行政の活動が「見えにくい」という声は、ほぼすべての地区で共通して聞かれた。同時に、地域の声が議会に届くまでの「道筋」そのものを求める意見が目立った。

具体的には

- 議員がいない地区の不安、「地区担当制」の要望
- 誰もが議会を傍聴・視聴できる環境の整備
- 予算編成の段階から議論できる仕組み

財政・施策の効果検証

物価高対策や現金給付・イベント・SDGs 関連事業・公共施設活用などについて、財源の使い方や費用対効果を丁寧に検証してほしいという声が多く出された。予算は、市民生活に直結する施策へ重点配分すべきとの意見が目立った。

具体的には

- 物価高対策と現金給付（継続性と財源見通しの提示）
- イベントや大型事業の費用対効果と検証
- 新規事業と既存活動との整合性

高齢化・福祉・見守り

単身高齢者や社会的孤立の増加に伴い、ごみ出しや買い物といった日常の困りごとがフレイルや孤立を加速させる一方で地域の支え手である民生委員やボランティアは高齢化と担い手不足が深刻で、個人情報の壁が迅速な見守りや支援の妨げとなっている。

具体的には

- 一人暮らし高齢者などへの見守り
- ごみ出し・買い物・外出支援
- 民生委員や地域ボランティアの担い手確保

生活環境・鳥獣害・防犯

ごみの不適正排出や不法投棄、保護猫支援、鳥獣害、防犯拠点の不足など、暮らしに密着した課題が共通して挙がった。地域の努力だけでは限界があり、人手・費用・情報共有を含めた行政支援の強化が求められている。

具体的には

- ごみ集積所の不適正排出・不法投棄への対応
- 保護猫支援
- 鳥獣害対策（資材費/維持管理/捕獲後処理まで含む支援）

人口減少・若者定住・教育

河和田小の児童数が130人を下回るなど、数字で語られた危機感。住みやすさは実感されているのに定住・移住に結びつかないギャップに問題意識が集まった。

具体的には

- 児童数の減少
- 部活動の地域展開による指導者不足
- 地域活動の担い手不足

公共交通・道路・生活インフラ

つつじバスの夜間運行延長やデマンド交通の充実など、高齢者・学生の移動手段確保が課題。豪雪地帯特有の除雪、老朽化道路の補修、サンドーム周辺の混雑対策も喫緊のテーマである。

具体的には

- 夕方から夜間にかけてたつつじバスの運行
- 高齢者や学生の移動手段確保
- デマンド交通の活用・充実の必要性

市民と議員のおしゃべり会

